

## 概要

鋼板添え板ボルト接合部は、せん断力を受ける接合方法として古くから木造建築物に用いられてきた。せん断力を受けた際には、ボルト表面が木材にめり込み、ボルトが曲げ抵抗するため、ボルトの長さ及び径が接合部の耐力や変形性能に大きく影響する。鋼板添え板ボルト接合部は、せん断面の数により1面せん断および2面せん断に分類され、木規準<sup>1)</sup>では1面せん断および2面せん断の剛性と設計用許容せん断耐力を計算することができる。

下図の様なブレース耐力壁のブレース下部接合部では、1面せん断と逆方向に力が作用する場合の2面せん断となり、ブレース端部接合部の性能を仕様毎に設定する必要があり設計が煩雑になる。設計を簡略化することを目的として、ここでは一定以上のボルト長さであれば1面せん断と逆方向に力が作用する場合の2面せん断の接合部の性能が同等となることを示す資料を提供する。また、木規準<sup>1)</sup>では逆方向に力が作用する場合の2面せん断の剛性と設計用許容せん断耐力の計算方法が示されていないため、データシートの注意点で計算方法と一般的なボルト径の計算結果を示す。



